

たましま協同病院だより

玉島協同病院

倉敷市玉島柏島5209-1

電話(086) 523-1234

<http://www.tamakyō.com/>

発行責任者 青木弘人

[病院理念] 玉島とその周辺の地域で暮らす人々が、疾病・障害のあるなしにかかわらず、その人らしく輝いて暮らせ、安心して一生を終えることを支援する医療機関でありたいと願います



新年のご挨拶

玉島協同病院 院長 進藤 真

新年明けましておめでとうございます。

平和への思いを込めて石碑を建立

昨年はロシアのウクライナ侵攻の継続やイスラエルのガザへの無差別攻撃など、世界のあちこちで紛争の続く中、当院の駐車場に医療生協の組合員さんをはじめ、平和への思いを持つ方々の協力により日本国憲法第九条の碑が建立されました。昨年のノーベル平和賞は日本被団協が受賞しています。様々な困難がある中でも世界が希求している平和への思いを改めて感じる事の出来た一年でした。

地域との医療連携

地域ではコロナ禍で取り組めていなかった集まりや取り組みが再開されました。当院でも医療機関や介護施設との会合や学習会、職員の交流研修、症例の検討会などを通じて様々な形の連携を深めてきました。地域の高齢化が進む中で、ACP(将来の医療・ケアについて患者さんの意思決定を支援するプロセス)についての取り組みも進めてきました。

災害・紛争・物価高 苦しむ全ての人々に必要な医療を

能登半島での震災と豪雨災害、日本各地での異常気象の影響や世界各地の紛争による世界情勢の不安から、田安、物価高、実質賃金の低下など私たちの暮らしが脅かされる状況がある中で、私たちの病院でも厳しい医療・介護報酬の元で事業継続の努力を続けてきました。

玉島協同病院は今後も様々な課題に対して職員の知恵と力を結集し、住み慣れた地域でその人らしく人生を送る事を支える医療機関を目指します。

本年もよろしく願いいたします。

二〇二五年 元旦



玉島協同病院は無低診事業を行っています。お気軽にご相談下さい。

加集万里子の お料理教室

シリーズ
192



フライパンかわらそば



材料 (2人分を使って)

- ♥茶そば 2束
- ♥錦糸卵 2個分
- ♥牛肉か豚肉細切れ 100~200g
- ♥青ネギ 2本
- ♥めんつゆ 200cc
- ♥サラダ油かオリーブオイル 大さじ 0.5

肉の味付け調味料

- ♥酒、砂糖、醤油 各大さじ2分の1~1

山口県の名物料理です。お店では本物のかわらを温めて、その上に綺麗に盛り付けられたそばがのっていますが、家ではフライパンでそばを温めて楽しめます。

作り方

- ①茶そばを茹でて水に取り、ざるに上げておく。錦糸卵を作る、塩ひとつまみ加えた卵をよく溶きほぐし、薄焼き卵を焼き冷まして干切りにする。肉は細かく切り味付けして炒り煮する。青ネギは小口切り。
 - ②フライパンに油を熱し茶そばを炒める。全体が温まったら火を止め、1の具材をきれいに盛り付ける。
 - ③少し薄目のめんつゆを用意して出来上がり。
- 食べる時に全体を混ぜ合わせます。レモンがあれば絞るとさっぱりして美味しいです。茶そばがないときは、普通のそばでも美味しく出来ます。

*文章訂正のお知らせとお詫び
前号の「ごぼううどん」の作り方に誤りがありました。①のごぼうの茹で方ですが、「8分(ふん)くらい」柔らかくなるまでゆでるとありますが、正しくは「8分(ふ)とおり」です。茹でる時間ではなく、火の通り具合を表しております。ご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

医療・介護ネットワークづくり 第16回 倉敷見える事例検討会



他職種で事例検討を行う様子

見え検マップ(マインドマップ)を使って事例を他職種で多角的な支援で検討するのが見える事例検討会です。

16回目となる今回は、「20歳代の女性が、高齢の祖父母や脳梗塞で麻痺のある50歳代後半の父親のため、仕事を辞めて介護をしている」という事例でした。ヤングケアラー支援とは概ね30歳未満を中心としており、家族の介護や日常的な世話をこなすことにより、社会生活を円滑に営む上での困難を有する状態に至っている場合のことをいいます。ヤングケアラーの問題が報道される度にどのような解決方法があるのだろうかという関心を持っていました。

今回はひとつの事業所だけでは解決しにくい重層的な支援を必要としており、生活自立相談支援センター、障がい者支援センター、高齢者支援センターとの共同で連携して支援していくことの必要性を学びました。また、若い方を対象にした場合、書籍や安全なSNSの活用方法も参加者の意見をお聞きすることが出来ました。



水島虹の訪問看護ステーション
サテライト玉島
吉井 桂子

玉島協同病院は今後も部屋代はいただきません / カルテを開示しています

療養病棟レクリエーション 秋の大運動会

10/21 療養病棟で秋の大運動会を開催しました。準備運動、選手宣誓から始まり、風船早割り対決や玉入れなどの競技で盛り上がりました。どの競技も接戦でしたが、今回は見事、白組が勝利を収めました！参加した患者さんからは「とても楽しかった」との感想をお寄せいただきました。予想以上に大盛り上がり運動会で、普段の入院生活とはまた違った患者さんの一面を見ることができたイベントだったと思います。療養病棟では他にも秋祭りやクリスマス会などを開催予定です。入院患者さんに少しでも四季を感じて頂けたら嬉しい限りです。



新人看護師による 一泊二日の入院体験

当院では患者さんの心に寄り添う看護が出来るよう、新入職員を対象に研修として一泊二日の入院体験を行っています。今回は2名の看護師が体験しましたので、感想をご紹介します。



入院体験では、慣れない環境ということもあり同室者の声やスタッフの足音など些細な音でもストレスに感じてしまいました。たった一晩でしたが疲労感があり、実際に入院されている患者さんは疾患による身体的・精神的苦痛だけでなく、環境面でのストレスも感じながら入院生活を送っているのだと気づかされました。



今回の入院体験を通して、当たり前に行動ができない窮屈さがある中で、患者さんの安心に繋がる介入はどんなことか、

この体験から、患者さんがストレス無く安心して生活できるよう関わり方を意識するようになりました。患者さんの気持ちに寄り添う看護の意味について考えながら行動していきたいと思えます。

考える機会になりました。車椅子で移動するのにも身体のことを使って動いたらいいか、一つ一つ考えないといけないことに気づかされました。夜中は同室患者さんのイビキや咳で寝付きにくさや不安を感じましたが、スタッフの声のトーンが柔らかく、精神的に落ち着くことができました。今回の体験からスタッフの優しい声や笑顔が、闘病生活を送るうえで安心や勇気に繋がっているのではないかと考えさせられました。患者さんに安心感を与えていけるような介入をこれからも心がけていけたらと思います。

(外来看護師 柏木 衣織)

(2病棟看護師 原田 祥加)